

平成 27 年度 第 1 回 荒尾市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成 27 年 6 月 2 日（火） 開会 10 時 閉会 11 時 40 分

2. 場 所 荒尾市役所 市長公室

3. 出席者	荒尾市長	山下 慶一郎
	荒尾市教育委員長	境 民子
	荒尾市教育委員長 職務代理者	西尾 直子
	荒尾市教育委員	泉 亜矢
	荒尾市教育委員	旭田 國浩
	荒尾市教育長	丸山 秀人
(事務局職員)	総務部長	前田 修治
	政策企画課長	石川 陽一
	政策企画課 政策経営室長	田中 憲士
	政策企画課 政策経営室	平山 裕也
	教育次長（兼生涯学習課長）	塚本 雅之
	教育振興課長	大神 英子
	教育振興課 庶務係長	江口 雅臣
	教育振興課 庶務係	貴田 優梨亜

4. 傍聴者 2 名

5. 協議・調整事項

- (1) 総合教育会議の運営について
- (2) 荒尾市の教育について

6. 議事経過の概要

別紙のとおり

○議事経過の概要

1. 開会

石川政策企画課長より、開会の宣言及び配付資料の確認がなされた。

2. 主催者あいさつ

山下市長より、あいさつがなされた。

- ・教育委員会改革の一環で「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正されたことを受け、教育委員会と市長部局との相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、本会議を設置した。
- ・本市の将来を担う「教育」については、郷土や国の将来を左右する極めて重要なテーマだと認識しており、児童・生徒の学力向上を図るとともに、志をもった人材を育成していくことが重要だと考えている。
- ・教育委員会とさらに連携し、「人材を輩出する荒尾」を目指していきたい。

3. 自己紹介

委員及び事務局職員にて、自己紹介を行った。

4. 総合教育会議について

江口庶務係長より、資料1に基づき説明を行った。

質疑・意見等はなし。

5. 協議・調整事項について【進行：山下市長】

(1) 総合教育会議の運営について

田中政策経営室長より、資料2及び参考資料1、参考資料2に基づき説明を行った。

質疑・意見等はなし。

(2) 荒尾市の教育について

塚本教育次長及び大神教育振興課長より、資料3に基づき説明を行った。

〔丸山教育長〕	教育費の予算を見て、市長はどのように感じられるか。
〔山下市長〕	全体的な割合をみると、少ないと感じる。県の予算ではもっと多いが、これは職員の人件費によるところもある。
〔大神課長〕	総予算に占める教育費の割合は、県の平均が21.5%、市の平均が10.0%となっている。
〔丸山教育長〕	本会議を予算確保のための場とは考えていないが、民生費が多いのは仕方がないとしても、教育の安定のためにはもう少し予算を

〔山下市長〕

拡充してもらいたいところではある。

予算に関しては、必要などころに必要な分を割り当てなければならないと考えている。職員に対しても、自分の財布と同じような感覚で予算を執行するよう指導している。教育に関しては、将来への投資という意味合いが強いと思うが、お金も時間も、将来にプラスを生むような使い方をすべきだと考えている。本当に必要なものに対し予算が行き渡っていないということであれば、手当てをしたいと考えているので、現場の声を含めた意見を聞かせていただきたい。

〔境教育委員長〕

情報公開という考え方のもと広報等で予算が公開されているが、単なる事実の公表だけでなく、比較対象となるデータも公開してもらえると、市民にとってもそれについて考えるきっかけになると思う。

教育費の予算も、以前は予算全体の10%以上はあったし、統合の話が出た時も、この程度の予算は確保してほしいと言っていた。統合して規模が小さくなる分、豊かな教育が受けられるようにしてほしい。

本市の経済状況も理解しているが、本市以外の学校に行くと、あまりの環境の違いに、荒尾市に来てください、とは恥ずかしくてとても言えない。お金がないと子どもが育たないとは思わないし、設備がなくても勉強はできると思うが、見た目も子どもたちのプライドに繋がり、大事だと思う。本市に学校が新築された際行ってみたが、なにか貧弱な感じを受けた。本市では補助金だけで賄えるような建設しかしていないからだということも耳にした。このような状況で子どもたちが精神的に健全に育てばいいと思うが、少し視点を変えて考えてもらいたいとも思う。

〔山下市長〕

予算の割合などの数字については、他自治体と比較・分析する必要がある。熊本県では、類似県というものをもって、面積や人口規模などが類似するところと比較検討している。

〔丸山教育長〕

これまで財政再建などもあってなかなか改築できなかった。これからは公共施設等も見直していくと聞いている。

〔石川課長〕

公共施設においては、人口減少に応じた適正な規模で、長寿命化や建て替えなど合理化できる方法を検討する方向で動いている。公共施設が一斉に老朽化している中で、どのように集約していくのか、長寿命化させていくのか、時期やお金の面も含め全体的に検討したいと考えている。

〔丸山教育長〕

〔泉教育委員〕

〔山下市長〕

〔大神課長〕

〔山下市長〕

〔西尾教育委員長
職務代理者〕

〔旭田教育委員〕

施設の建て替えを検討するにあたっては利用状況の分析が重要になってくるが、生徒数が減少しているのは気になるところである。

不登校の状況も厳しいものとなっている。

私は適応指導教育に携わっており、不登校の状態が続く子どもを預かっている。例年5月頃から相談が増える。家庭的な原因によるものが多いが、1人1人のケースについて、学校と相談しながら、できるだけ学校に戻れるよう対処している。

平成22年度から比べると不登校の状況は改善されているようだが、何か具体的な取組みを行ったのか。

特に何かを行ったわけではないが、それぞれの学校で丁寧な対応を行っていただいているからだと思われる。連絡がなく1日でも休んだら、電話をかけたり家庭訪問をしたりしている。

予算の割合が他自治体に比べ低いということだが、このようなデータを見ると本市の強み弱みが見えてくると思う。弱みを改善し標準並みにもっていくにはどうしたらよいかを考えるにあたっては、そこに予算が必要になるかもしれないが、予算をつけるには一定の成果が見込めないと難しいため、データを分析し、平均より低いところがあるから何をすれば改善するのかというストーリーを考えなければいけない。それができれば、議会も市民も納得するだろう。

一方、お金をかけなくてもできることがあると思うため、そこを徹底してほしいとも考えている。当たり前のことを当たり前にするということを徹底することで、派生的に他の問題も解決していくだろう。そのような検討を踏まえた上で、やはりお金が必要だということならば、そこは我々も自信をもって説明ができる。

私は学童保育の指導員として携わっているが、小学生を見ていると、毎年本当にいろいろな子どもが出現する。学習面だけでなく家庭環境でも様々である。そのような子どもたちを育てていくためには、指導者が研修を受けてスキルを高めることも必要である。人づくりのための予算がこの程度でよいのかとは思っていた。お金をかければよい人づくりができるわけではないが、人づくりのために環境を整えることは重要だと思う。

学力の面で、かなり低いと感じており、家庭学習の時間が少ないのだろうと思っている。学力を上げるためには、家庭でも勉強をしなければならないが、そのためには勉強を好きになってもらわないといけない。家庭でも働きかけて、家で勉強する時間を増や

〔山下市長〕

すことが必要であろう。

学習については、動機づけが大事だと思う。学ぶことでいかに自分の将来にプラスになるか、何のためにするのかを理解させることがポイントである。そこが分かると、家庭での学習時間の増加に繋がるのではないだろうか。

学校現場ではいじめや不登校など問題も多く、学校の先生も大変だと思う。学校に任せきりにするのではなく、地域の人材が学校に出向くなど地域全体で学校を支える工夫が必要になっていると感じる。地域の人材を学校現場でも活用し、地域の教育力を高めたいけるような仕組みづくりをしてもらいたい。

〔丸山教育長〕

そのような取組みとしては、コミュニティスクールを実施し、地域の人材を活用している。今後も機運を高めるために続けていく予定である。

〔山下市長〕

それは人材として活用される側にとっても良いことであろう。スキルを活用する場ができることで、生き甲斐にもなり、みんなが元気になる。

高齢者は宝であると思う。世代間交流により、子どもたちに知恵を伝えていってもらいたい。学校にはそのための場をつくってもらおう。そうすることで地域内の連携はさらに深まるだろう。

学校は地域コミュニティの拠点であるため、みんなで守り育てていってもらいたい。そのための方法をこの会議で議論して、大綱に盛り込んでいければよいと思う。

(3) その他

特になし。

6. その他

(1) 次回の総合教育会議の日程について

石川政策企画課長より、次回の会議は10月頃開催する旨及び教育大綱について協議予定である旨が報告された。

(2) その他

特になし。

7. 閉会

石川政策企画課長より、閉会の宣言がなされた。